

○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、電子部品・デバイスが半導体集積回路で好調、はん用・生産用・業務用機械が半導体製造装置で好調など、堅調に推移。設備投資は、生産性向上や省力化のための投資で積極的な動き。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、高額商品が好調に推移し、インバウンド消費も引き続き好調。

○生産

・電子部品・デバイス：

車載向け、スマートフォン向けを中心に東北、関東、東海、近畿、中国、九州で好調。

・はん用・生産用・業務用機械：

半導体関連や自動車関連工作機械等を中心に東北、関東、東海、北陸、近畿中国、九州で好調。

・輸送機械：自動車部品や乗用車等を中心に東海、近畿、中国で好調。

○設備投資

・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、受注対応に向けた生産性向上の投資や人手不足対策としての合理化・省力化の投資がみられ、多くの企業で積極的な動き。

・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装等への投資に加え、一部に人手不足対策としての省力化投資への動き。

○雇用情勢

- ・製造業：技術職や現業職の不足が継続しており、特に中小企業では大企業との競合により人材の確保が困難。正社員への登用や託児施設の設置等待遇改善による人材確保の動き。
- ・非製造業：建設業、小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。就業時間見直し等働き方の多様化への対応や賃上げ等待遇改善の動き。また、省力化・自動化の推進の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：百貨店は、化粧品や免税品、高額品の売上好調。
スーパーは、天候不順の影響があるものの、飲食料品が好調のため堅調に推移。
- ・コンビニエンスストア：カウンター商材や中食向けの総菜等が好調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、高付加価値商品が好調。
- ・家電大型専門店：白物家電や携帯電話を中心に高機能製品が好調。
- ・乗用車販売：無資格検査問題の影響等により減少。
- ・観光：外国人観光客が増加しており、インバウンド消費は引き続き好調。

10-12月期企業の声

企業の主な声

生産

- ・フル稼働で需要が旺盛。情勢的には今後も好調が続くと考えられる。(電子部品・デバイス／中国)
- ・国内外の自動車、半導体需要が順調に推移していることから受注増加。(生産用機械／東北)
- ・海外向けの半導体・液晶関連製造装置が引き続き好調。(生産用機械／九州)
- ・海外、特に中国向けを中心としてフル稼働、フル生産が続いている。(輸送機械／東海)

設備投資

- ・主たる投資は老朽化更新や安全対策、BCP対策といった維持更新目的。(電子部品・デバイス／東北)
- ・生産性向上を主たる目的として追加投資を行う。(はん用機械／関東)
- ・自動で作業する機械設備を導入することで人手不足感を補う。(窯業・土石／東海)
- ・イートインや総菜の需要拡大が見込めるため、売り場の強化を行う。(スーパー／近畿)

雇用

- ・生産量の増加により製造現場での作業員が不足している。(生産用機械／関東)
- ・大卒の内定者の半数が辞退したため、高卒の採用枠を広げて対応した。(金属製品／九州)
- ・人手不足のため、自動化対応とともに、社内託児所を新たに設立した。(はん用機械／東海)
- ・パート・アルバイトともに募集をかけても集まらず、高齢者の採用が増えている。(スーパー／北陸)

消費

- ・富裕層の動きが良く、高額品が購入されていることから客単価が上昇している。(百貨店／北陸)
- ・台風の襲来により来客数が減少した。(スーパー／近畿)
- ・携帯電話が新型スマートフォン効果で好調に推移し、白物家電も大型のものが売れている。(家電量販店／四国)
- ・一部の無資格検査問題の影響などで、新車販売に影響がみられた。(乗用車販売／東北)
- ・クルーズ船の寄港回数増加等により外国人客は、個人やグループ客も増えている。(スーパー／沖縄)

最近のトピックス

- ・不漁による原料価格高騰から、水産加工品の生産が減少。(食料品／北海道)
- ・受注環境が良好なため、部品の確保が難しい。仕入先を取り合うような状況。(生産用機械／近畿)
- ・7-9月は台風や九州北部豪雨と観光へのダメージが大きかったが、10-12月は前年並に戻ってきている。
(宿泊・飲食サービス／九州)

北海道

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉 生産は、建設資材が増産するものの、水産加工品の減産から一進一退。個人消費は、免税売上や飲食料品が堅調なことから持ち直し。観光は、外国人観光客の増加等から好調。</p>
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一進一退の動きとなっている ✓ 道内外向け需要増により建設資材、台風被害復旧工事向け需要増により護岸用コンクリートブロックが増産。 ✓ 一方、不漁により水産加工品、海外仕入先からの部品供給トラブルにより情報機器が減産する等、一進一退。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 29年度は、生産能力増強投資や人手不足対策としての省力化・合理化投資から、製造業・非製造業ともに前年度比で増加。 ✓ 製造業では、食料品や輸送用機械で工場の新設や生産設備の増強投資等。 ✓ 非製造業では、小売で新規出店や物流施設の新設、ホテルの新設等。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。 ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。 ✓ このため、高齢者、女性、派遣社員の活用に加え、中途採用を実施。また、休日の増加、労働時間の短縮、賃上げ、正社員への登用等により待遇改善を図り、人員を確保。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 百貨店は、化粧品等の免税売上や国内富裕層向け高級ブランド品が好調。スーパーは、飲食料品が引き続き堅調。 ✓ コンビニエンスストアは、気温の低下により温かい商材、ドラッグストアは、化粧品が好調。 ✓ 新車販売は、安全装備を搭載した軽自動車为好調なものの、普通車、小型車に無資格検査問題の影響があり、全体で微減。 ✓ 観光は、国際線の増便に伴う外国人観光客の増加等から、引き続き好調。</p>

関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	97.1(97.5)	1.16(1.09)	1.4%(0.9%)	2.2%(▲0.8%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

東北

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉 生産は、生産用機械が高水準で持ち直しの動き。雇用情勢は改善しているものの、個人消費はコンビニエンスストアが弱含むなど足踏み状態。</p>
-------------	---

<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は持ち直しの動きとなっている ✓ 生産用機械は、半導体関連、自動車向けで高水準。 ✓ 電子部品・デバイスは、車載・スマートフォン向けを中心に高水準。 ✓ 輸送機械は、国内自動車市場低迷により弱含んでいる。 ✓ 情報通信機械は、民生用機器により弱い動きが継続。 ✓ 生産の先行きは、「変化なし」とする見通しが多い。</p> <p>○設備投資は緩やかに持ち直している ✓ 9割の企業が前期時点と「変更なし」としており、製造業、非製造業とも計画通り設備投資を実施する企業がほとんど。 ✓ 平成29年度の設備投資額は、全産業で前年度比2.7%減、製造業で3.0%減、非製造業で2.3%減の計画。高水準だった平成28年度に比べ微減の計画。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 平成29年11月の有効求人倍率は、1.49倍、新規求人倍率は2.13倍と共に2ヶ月連続で過去最高を更新している。 ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期とほぼ同様に約6割となり人手不足感が顕著。 ✓ 人手不足に関する主な声としては、定年退職等による人員減少、若年層の人員・中間管理職者層の人材不足、定着率低下など。</p> <p>○個人消費は足踏み状態となっている ✓ 百貨店・スーパーは、仙台圏の百貨店を中心に高額品などに動きがみられ、歳暮も堅調だが、日常の消費には低価格志向の強まりもみられるなど、全体としては節約志向が継続している。 ✓ コンビニエンスストアは、このところ弱含んでいる。ドラッグストアは、新店効果などにより堅調。 ✓ 新車販売は、無資格検査問題などの影響による減少がみられる。 ✓ 売上金額の先行きについては、「変化なし」とする企業が多い。</p>
---	---

<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">99.3 (101.4)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.49 (1.44)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲0.4% (▲0.5%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">0.5% (▲0.6%)</p>
-------------	--	---	--	---

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

関東

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉</p> <p>生産は、一般機械等が好調で緩やかな持ち直しの動き。雇用情勢は、改善。個人消費は、百貨店で富裕層に加え中間層にも消費マインドの上昇がみられるなど持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 輸送機械は、一部で減産の動きがみられたものの、SUV等が引き続き好調であることから、生産は概ね堅調に推移。 ✓ 一般機械及び電気機械は、アジア向けを中心に半導体関連の設備・機械装置向け需要が好調に推移。 ✓ 電子部品は、スマートフォン、自動車、産業機器向け等の分野で好調。 ✓ 鉄鋼業は、国内自動車向け需要が堅調に推移。先行きとして、オリンピック関連など建設分野における需要を期待。 <p>○設備投資は前年度を上回る見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、大企業、中小企業ともに当初の計画どおりに設備投資を行うとの声が多数を占めるが、一部では、継続する好調な受注や人手不足を受け、生産能力の増強や生産性向上を目的に設備投資を前倒し・追加するとの声も聞かれた。 ✓ 非製造業では、当初計画どおりに設備投資を行うとの声が多数を占め、計画変更はほぼみられない。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、依然として技術職や経験者が不足しており、また、現業部門における人員の不足感も増している。人材の確保がより難しい状況。 ✓ 非製造業では、技術者や小売業でのアルバイト等が不足。また、人材確保のため、短時間勤務や残業時間削減など労働条件改善の動き。 <p>○個人消費は持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店では、化粧品、高額商品が引き続き好調なことに加え、衣料品にも動きがみられた。富裕層だけでなく中間層にも消費マインドの上昇がみられるとの声も聞かれた。インバウンドは引き続き堅調に伸びている。 ✓ スーパーでは、一部で台風の影響がみられたものの、食料品を中心に堅調に推移。 ✓ コンビニエンスストアは、概ね堅調に推移。カウンター商材や惣菜、高価格帯のスイーツが引き続き好調。 ✓ 乗用車販売は、普通車・小型車がやや低調なものの、軽自動車は新型車効果により引き続き好調。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">96.8(96.7)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.59(1.57)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">1.4%(1.2%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.1%(2.0%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、輸送機械に増加の動き、電子部品・デバイスが緩やかに増加。個人消費は、百貨店・スーパーに動き、ドラッグストア、乗用車販売などが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は増加の動きがみられる。 ✓ 主力の輸送機械は、自動車部品が海外向けを中心に好調なことから、増加の動きがみられる。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に、緩やかに増加。 ✓ 金属工作機械は、部品不足の影響がみられるものの、高水準で推移している。国内は自動車、半導体製造装置向けが好調。海外は、中国向けが自動車や半導体関連に加えて、省人化対応への需要が高い。</p> <p>○設備投資は増加している。 ✓ 製造業は、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスでは新製品対応や能力増強の動き。大企業、中小企業ともに、投資意欲が高い。非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。 ✓ 製造業・非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる。 ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの、技術者を求める声が多い。中小企業では、不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続。募集をしても人が集まりにくい状況。 ✓ 製造業・非製造業ともに、企業内託児所の設置など働きやすい環境づくりへの取り組み。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している。 ✓ 百貨店は、改装・催事による効果がみられたことに加えて、気温の低下に伴い冬物衣料に動き。インバウンド消費は、引き続き好調に推移。スーパーでは、天候不順の影響により生鮮野菜、供給減により鮮魚などの高値が続く中、気温の低下に伴い鍋商材や防寒商品に動き。 ✓ コンビニエンスストアでは、新規出店が伸び悩み。ドラッグストアでは、化粧品や医薬品の好調が継続。家電販売店では、携帯電話、白物家電、暖房器具などが好調。スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、家電販売店、ホームセンター間の競争が激化。乗用車販売は、堅調に推移。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) ※季節調整値</small></p> <p>119.1(119.5)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.82(1.79)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>1.1%(▲0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>▲0.2%(2.0%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(北陸)

全体景況

〈改善している〉

生産は、電子部品・デバイス、化学を中心に高水準で推移し、個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調で、自動車販売なども堅調に推移し、緩やかに持ち直している。

○生産は高水準で推移している

- ✓ 電子部品・デバイスは、スマホ向けの一部で伸び悩みがみられるものの高水準で、自動車向けなども好調。
- ✓ 化学は、新薬などは減少傾向が続き、一部では在庫調整がみられるもののジェネリック医薬品中心に高水準。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、建設機械や自動車向けの工作機械などは国内外向けが好調に推移し、半導体製造装置などにも海外向けを中心に好調な動き。
- ✓ 繊維では、産業資材は医療・福祉向けなどに好調な動きがみられるが、衣料は厳しい状況が続いている。
- ✓ 金属製品は、住宅用建材は弱い動きが続いているが、樹脂複合など性能の高い製品には需要がある。

○設備投資は緩やかに増加している

- ✓ 製造業は、電子部品・デバイスなどで生産能力増強や設備更新に加え、省力化などの生産性向上を目的とした投資も積極的に行われている。
- ✓ 非製造業は、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した投資を行う動きもある。

○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる

- ✓ 製造業では、生産が増加している企業は、派遣社員の増員や社内における配置換えなどで人員の最適化を図っており、ロボット導入などの生産性向上で対応する動きもみられものの、一部では生産への影響を懸念する声も聞かれる。
- ✓ 非製造業では、慢性的な人手不足により、高齢者の採用などで対応する動きもみられるが、引き続き労働需給はひっ迫している。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ スーパーは、店舗改装・新規出店効果が落ち着き、天候影響もあって一部でやや弱い動きがみられるが、おむね横ばいで推移。百貨店は、中間層の動きは鈍いが、富裕層の動きが良く高額品が好調。
- ✓ コンビニエンスストアは、客数は減少しているものの買上点数が増え客単価は上昇し、ドラッグストアは、食料品中心に好調な動きが続いている。
- ✓ 自動車販売は、予防安全装置対応車であるサポカーに引き続き好調な動きがみられ、全体では堅調に推移。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

127.9(138.1)

有効求人倍率
※季節調整値

1.87(1.91)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.3%(3.1%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

0.1%(1.2%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は、はん用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に横ばいながら高水準で推移。個人消費は、気温低下で衣料品を始めとする季節品の動きが好調なことなどから緩やかに改善している。

○生産は横ばい傾向

- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外向け自動立体倉庫装置が好調。
- ✓ 電気機械は、車載用を始めとするリチウムイオン蓄電池が高水準で推移。
- ✓ 電子部品・デバイスは、中国向けスマートフォン用のコンデンサが好調。
- ✓ 輸送機械は、国内向け乗用車が増加し、自動車部品も堅調。
- ✓ 総じて生産は高水準で推移しているが、生産ラインをフル稼働しても受注に追いつかないとの声や、受注は好調だが部品の確保が難しい状況にあるとの声も聞かれる。

○設備投資は緩やかに増加している

- ✓ 製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強を中心に多くの企業で当初計画どおり設備投資が実施されている。また、一部の企業では生産能力を向上させるための追加投資や人手不足を補うための自動化への投資がみられる。
- ✓ 非製造業では、倉庫を始めとする物流施設への投資や、小売業で需要拡大のための新規出店や店舗改装がみられる。

○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる

- ✓ 人手不足が続いている。小売業やサービス業を中心にパート・アルバイトの確保が困難であり、また製造業を中心に技術者や有資格者が集まりにくいとの声が多く聞かれ、事業への影響も懸念されている。
- ✓ 対策として、時給アップ、短時間勤務の導入、女性の活躍、外国人など多様な人材の活用、省力化の推進がみられる。
- ✓ 働き方改革として、残業抑制や休暇取得促進の取組みが多くみられる。

○個人消費は緩やかに改善している

- ✓ 百貨店は、免税品や高額品の好調に加え、気温の低下に伴い冬物衣料も国内中間層を含めて動きが良い。スーパーは、相次ぐ台風接近もあり客数が減少したが、畜産品を中心に食料品は堅調。コンビニは引き続き好調。
- ✓ 家電は、高機能・高単価の白物家電に加え、新型の携帯電話やゲーム機が好調。乗用車は、新型車が牽引するも、小型車を中心に無資格検査問題の影響で減少。
- ✓ インバウンド消費は好調を維持。

個別の動向

(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

108.1(110.9)

有効求人倍率
※季節調整値

1.53(1.49)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

1.7%(0.8%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

2.3%(3.4%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中国

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに持ち直している〉</p> <p>生産は、鉄鋼や自動車が増産で緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、衣料品に動きがみられ高額商品や高付加価値商品が好調で緩やかに持ち直している。</p>
-------------	--

<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鉄鋼は、一部事業所の設備故障による生産減から回復し増産。 ✓ 化学は、フル生産を継続し、横ばい。 ✓ 自動車は、輸出向け車両がやや増産。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、設備投資が引き続き好調で、やや増産。 ✓ 電子部品・デバイスは、好調を維持しており、横ばい。 <p>○設備投資は持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、受注増加への対応に向けた能力増強、既存設備の維持更新が計画されている。一部投資を先送りする動きも見られるが、概ね計画通り。 ✓ 非製造業では、新規出店や既存店の改装、既存設備の維持更新が進められている一方で先行きへの不安感等から投資を先送りする動きも見られる。 <p>○雇用情勢は着実に改善が進んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では現業職や技術職、非製造業では販売員やドライバーなど様々な職種で人員不足の声が聞かれる。従業員やパートの定着・確保のため賃上げを実施したとの声も聞かれた。 <p>○個人消費は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店では、引き続き化粧品や富裕層による高額商品の購買が好調で、インバウンドも小規模ながら増加が続いている。 ✓ スーパーでは、総菜でO-157による食中毒の影響が続いているが、ブラックフライデーにおいて衣料品などが好調。 ✓ ホームセンターでは、灯油の価格上昇や商品単価の上昇により売上げを伸ばした。 ✓ 家電大型専門店とドラッグストアでは、高付加価値商品が選ばれており好調が続いている。 ✓ 乗用車販売は、無資格検査問題などにより、11月は17ヶ月ぶりに前年を下回った。
-----------------------------------	--

関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	102.2(100.1)	1.77(1.73)	1.5%(0.1%)	1.9%(1.5%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

四国

全体景況

〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉

生産は、プラスチック製品を始め、持ち直しの動きに広がりが見られるものの、引き続き一進一退。個人消費は、一部に台風や天候不順の影響がみられたものの、持ち直しの動き。

○生産は一進一退となっている

- ✓ パルプ・紙・紙加工品は衛生用紙などが、電気機械は光電変換素子などが、それぞれ堅調な外需に支えられ、引き続き高水準で推移。
- ✓ 食料品は業務用調味料や家庭用冷凍食品などが、プラスチック製品は汎用フィルム製品や光学フィルム製品などが、それぞれ需要好調であり、持ち直しの動き。
- ✓ はん用・生産用機械は、建設機械などで国内向けに動きがみられるものの、外需が低調であり、一部に弱い動き。
- ✓ 輸送機械(造船)は、受注に改善の兆しが見られるものの、依然、操業度は低調。

○設備投資は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 製造業では非鉄金属、はん用・生産用機械、電気機械を中心に増産・新規受注対応といった積極的な投資計画がみられる。非製造業では、小売で店舗の新設や改装などの前向きな計画も。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 製造業・非製造業ともに、多くの事業所で雇用者数の不足が見られる。特に、小売や建設の事業所において、事業の拡大を背景に人手不足の状況が顕著。
- ✓ 人手不足感が強い事業所では、新規採用の拡充や中途採用の募集、派遣の活用などの対応がなされているほか、賃金などの処遇面での改善、働き方改革の一環で残業時間の縮減などが進展。

○個人消費は持ち直しの動き

- ✓ 百貨店は、高額品に動きがみられ、主力の衣料品では冬物衣料がやや改善。スーパーは、主力の飲食料品で生鮮野菜に天候不順などの影響があったものの、総菜、冷凍食品などを中心に堅調に推移。コンビニエンスストアでは、カウンター商材や調理麺、総菜などが好調。
- ✓ 家電販売は、携帯電話が伸び、4Kテレビや白物家電の高単価商品は堅調。乗用車販売は、軽乗用車に持ち直しの動きが見られるものの、一部供給側の問題から全体としては持ち直しの動きに一服感。

個別の動向

(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

銚工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
98.1(101.7)	1.52(1.50)	2.0%(0.1%)	1.3%(1.8%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

九州

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉</p> <p>生産は、海外向けを中心に高い水準を維持している。設備投資は、増産に向けた投資及び新分野への投資がみられる。個人消費は、重衣料、化粧品、高額品等が底堅く持ち直している。</p>
-------------	--

<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばい傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 輸送機械は、海外向けを中心に高い生産水準を維持している。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、スマートフォンや自動車関連の設備投資が好調で生産を増やしている。 ✓ 素材関連は、窯業・土石、非鉄金属、化学にて電子部材向けの生産が好調に推移。鉄鋼も自動車向け、建材、プラント装置向けに好調な生産が続いている。 ✓ 電気機械は、自動車向けの電気機械及び電子部品の受注が好調で増産しつつも、一部では部材調達の不足による減産も生じている。 <p>○設備投資は増加している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、国内外の受注に対応するための増産に向けた投資及び新分野への投資がみられた。 ✓ 非製造業では、ホテル及びマンションの新規建設や耐震補強及び売り場改装の工事がみられた。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 有効求人倍率が過去最高の水準で推移しており、製造業、非製造業ともに、人材不足が慢性化。 ✓ 製造業では、社内の他工場へ生産移管して人員を必要な部門に廻したり、定年年齢の引上げにより対応するも、社員の高齢化により若手の技術者が不足しているとの声も聞かれた。 ✓ 非製造業では、顧客の来店時間等を分析して営業時間の短縮を図ったとの声や、専門人材が地方に少ないことを危惧する声もあった。 <p>○個人消費は持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 昨今の株高等を背景に、客単価が上昇するとともに、インバウンドの増加や地元プロ野球チームの優勝セール等が売上増加につながった。また、気温の低下が前年より早かったことも単価の高い重衣料の売上増に寄与した。 ✓ 観光レジャーは、行楽シーズンに入り、国内旅行、海外旅行ともに単価が上昇した。 ✓ 住宅関連は、販売棟数は減少ながらも中高級商品へのシフトが続き、住宅展示場への来場者も前年を上回っていた。
-----------------------------------	---

関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	109.7(105.7)	1.46(1.42)	2.6%(0.5%)	2.4%(2.4%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。
 ※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費は改善が続いている。また、設備投資も持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている <ul style="list-style-type: none"> ✓ 管内の主要な製造業である食料品工業についても、大きな増減は見られない。 ✓ その他の工業(主に平板印刷(オフセット印刷))の鉱工業生産指数は大きく上昇したが、鉱業は低下し、全体としては横ばい。 </p> <p>○設備投資は持ち直している <ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成29年度の設備投資額は、非製造業が前年度比44.7%増と特に高く、製造業も4.5%増で、全産業で38.3%増。 ✓ 老朽化に伴う設備更新や、生産規模拡大のための製造ラインの増設や、新規の機器の導入を実施する等の声が聞かれた。 </p> <p>○雇用情勢は改善が続いている <ul style="list-style-type: none"> ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍以上を維持しており堅調に推移している。 ✓ 依然として正規・非正規職員ともに不足しているとの声が多い。 ✓ 一部には、働き方改革の実施により、残業の縮減に取り組んでいるとの声も聞かれた。 </p> <p>○個人消費は改善が続いている <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパーを中心に堅調に推移している。 ✓ 全体的に、客数、客単価とも増加傾向。 ✓ 一部には、家電製品等で外国人客の売上げが持ち直しているとの声が聞かれた。 ✓ 観光は、クルーズ船の寄港回数の増加や連休の並びが良かったこと等により、入域観光客数が62ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。 </p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">103.6 (94.8)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">1.14 (1.11)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">6.6%(2.7%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">2.4%(2.4%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値(鉱工業生産指数は10月、括弧内は7月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。